

【東根市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「『令和の日本型教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められており、学校教育の基盤的なツールとして ICT は必要不可欠であるとされている。

本市では、「東根市教育等に関する施策の大綱」（令和3年4月）において、「社会の変化に対応していく確かな学力を付ける教育の推進」を掲げており、ICTを活用した授業のDX化により自ら学ぶ意欲を醸成し、課題を解決していくための基礎となる資質・能力を育む。

2. GIGA 第1期の総括

本市では、令和2年度に1人1台端末と高速大容量ネットワークを整備し、運用を開始した。また、令和5年度には大型提示装置を整備し、ICT教育推進のための環境整備を行ってきた。加えて、ICT支援員の配置や学校DX戦略アドバイザーによる研修会の開催など、教職員のICT活用力向上を図り、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進してきた。

こうした取組みにより、授業や家庭学習でICTの活用が進み、ICT機器を身近なツールとして日常的に使用する新たな学習スタイルが定着している。

その一方で、1人1台端末本体のスペックに起因する不具合の増加やICT活用力の学校間、教職員間格差などGIGA第2期に向けて解消しなければならない新たな課題が明らかになった。

これを受けて、今後はICT機器の保守管理や定期的な更新を確実に実施し、環境の維持に努めるとともに、ICT支援員の継続配置や研修会の実施などICT活用力向上のための機会を提供し、引き続き格差解消に努める。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA第2期は、GIGA第1期の効果検証結果を踏まえ、1人1台端末の更なる活用を推進する。

（1）1人1台の利活用方策

1人1台端末や大型提示装置、ネットワーク環境の保守管理を専門業者に委託し、良好な環境維持に努める。また、ICT支援員の配置や研修会、情報交換会の開催により学校間、教職員間で生じているICT活用力の格差を解消する。

（2）個別最適・協働的な学びの充実

児童生徒が「自ら調べる」、「考えをまとめる」、「発表・表現する」、「教職員と児童生徒がやりとりする」、「児童生徒同士がやりとりする」、「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて

課題に取り組む」場面で1人1台端末を活用し、より主体的に学習に取り組む授業づくりを推進する。また、学習ドリルソフトや協働学習ソフトを活用し、「個別最適な学び」を「協働的な学び」の充実を図る。

（3）学びの保障

「誰一人取り残さない学びの保障」に向け、様々な理由で学校生活に困難を抱える児童生徒に対し、1人1台端末を活用した多様な学びの機会を提供する。

また、支援を必要としている児童生徒の小さな声を可視化し、早期に最適な支援につなげるため、1人1台端末による「心の健康観察」を実施していく。